

定例法座法話(午後1時から) ○4月21日(日)：前田雅敏氏「長林寺」 ○4月27日(土)：大町慶華輪番 ○4月28日(日)：野崎尚齊氏「西正寺」 ○5月1日(水)：廣瀬堪氏「順承寺」 ○5月11日(土)：大町慶華輪番 ○5月13日(月)：日野光洋氏「桂林教会」

「善信の御坊」を表題とする「恵信尼消息」の第五通は、二つの時点のことを交えて語っている。一つは、一二二四(建保二)年、常陸の下妻に入る直前、上野国の佐貫の「三部経千部読誦」と呼ばれている出来事である。これが、第三通後半の下妻の夢に直接関係するのではないかと考える。もう一つは、それから十七年後の一二三三(寛喜三)年、「寛喜の内省」と言われる出来事である。この二つの時点の背景には、共通するものがあることが指摘されている。それが自然災害である。これを藤原定家の『明月記』や『吾妻鏡』等を参考にして追ってみる。

それから十六年後、天候不順を理由に、一二二九(安貞三)年三月五日安貞は寛喜と改元された。更にその飢饉が全国に広がるのが、翌一二三〇(寛喜二)年の夏である。六月九日、美濃・信濃・武蔵で雪が降り、京都でも綿衣を着込み、冬のような冷夏となつて、七月十六日諸国に霜が降つて、八月・九月には台風により



は、諸国からの流民が鎌倉や京都に集まり、餓死者の死骸が道路に充満する状態となつていく。幕府では、従来禁止されていた人身売買を、子孫やまた自身を売って他人の下人となることで生き延びる「活命の計らい」として容認している。後に「天下の人種三分の一失す」と語られる寛喜の大飢饉である。聖人が熱にうなされながら、「大経」(仏説無量寿経)の文字がさらさら見えるという体験をするのは、この頃である。多くの死骸を目の当たりにした、聖人のいたたまれない心情が示されている。

“東日本大震災を心に刻む集会 Part 5”
 ～福島で今、何が起きているのか、私が聞かなければならない叫び～
4月29日(月) 昼1:30～3:30
 会場 高山別院 庫裡ホール
入場無料
第1部 基調講演
 ささきみちのり 佐々木道範さん「福島を生きる」
 NPO 法人「TEAM 二本松」理事長・同朋幼稚園理事長・真宗大谷派真行寺副住職。福島県二本松で、原発事故後いち早くNPO法人を立ち上げ、食品の放射線量測定、除染活動、子どもの県外一時保護支援活動などに取り組む。
 いがらしひろこ 五十嵐浩子さん「旧警戒区域の現実」
 東日本大震災の原子力発電所事故の影響で福島県双葉郡浪江町から避難。避難所を5ヶ所変えた後、現在は家族と共に高山在住。宮城・福島から高山に避難している被災者のつらい「みちのく結心会」代表。
 どい た え こ 土井妙子さん「福島原発をめぐる避難、被害」
 福井市出身。金沢大学教授(人間社会研究域、学校教育学類)。専門は公害・環境教育論。2011年8月から月に1度、福島県に通い、避難者から避難経緯や生活状況全般に関してヒアリング調査を重ねている。
第2部 討論会
 パネリスト：佐々木道範・五十嵐浩子・土井妙子
 コーディネーター：旭野康裕(下呂市永養寺住職)
 飛騨御坊ボランティア委員会

【清見組】
 期 日 4月28日(日)
 時 間 午後2時～
 会 場 ふるさと会館(高山市三日町)
 講 師 四 衛 亮 氏(総持町通達寺)
 講 題 「光の教え」
 参加費 500円

【白川組】
 期 日 4月23日(火)
 時 間 午後7時30分～
 会 場 浄 樂 寺(白川村長瀬)
 講 師 三本昌之 氏(山田町通達寺)
 講 題 「真宗門徒の生活」
 参加費 500円

真宗公開講座

住職の言葉
 お慈悲
 莊川組 進勝寺 小谷 秀道
 東日本大震災により、多くの人の命が、家が、田畑が、財産が失われて二年が過ぎました。三月十一日を中心として追悼の集いが各地で行われました。皆々涙を浮かべて悲しみの中に黙祷を捧げました。親鸞聖人は「歎異抄」第四章に「慈悲に聖道・淨土のかわりめあり。聖道の慈悲というは、ものをあわれみ、かなしみ、はぐくむなり。しかれども、おもうがごとくたすけとぐるること、きわめてありがたし」と述べられておりますように、被災された人々に、「大変です、お気の毒です、お救いください」と哀悼の意を申し述べ、何とかしてあげたいと思いますが、それ以上のことが何も出来ない私。私の身として出来ることには限界があることが今更ながら、もどかしく悲しく感じられます。ただ祈るしかできない私に無力さを感じます。「浄土の慈悲」というのは、念仏して、いそぎ仏になりて、大慈大悲心をもつて、おもうがごとく衆生を利益するをいふべきなり。今生に、いかに、いとおし不便とおもうとも、存知のごとくたすけがなければ、この慈悲始終なし。しかれば、念仏もうすのみぞ、すえとおひたる大慈悲心にてそうろうべきと云々」と、仏のお慈悲の力を述べておられます。この仏の救済によつて、念仏申す身となれない私と論議されていますが、なかなか信願できない私がおります。